

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	具体的に、理念の中に、地域での生活という内容が含まれていない	○	地域密着型サービスなので、理念の中に掲げようと思います
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	全職員が理念を念頭に置き、実践しているかどうか判断が困難	○	全職員がどのような場面でも理念に基づいた支援を行なうよう、ミーティングなどで、徹底したいと思います。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	理念の説明は、入居契約の時に説明しているが、地域の人に理解してもらえよう様な取り組みは出来ていない。	○	地域の行事などに積極的に参加し、その中で理解してもらえよう様、説明したいと思います。
2. 地域との支えあい				
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえよう様な日常的なつきあいができるように努めている</p>	近隣の方に積極的に挨拶するようにしており、下校時の小学生がよく、「トイレを貸してください」と来所します。		
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	区役に入っており、地域の行事や活動には、できるだけ参加するようにしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	入居者への支援で精一杯で、地域への取り組みまで検討できていないのが現状です。	○	今後、地域に貢献できる事があるか全職員で意見を出し合い、取り組んでいこうと思います。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の外部評価での助言が実行できていないものがある。	○	早めに実行したいと思います。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催していません	○	早めに開催したいと思います。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の開催する勉強会には参加するようにしていますが、実地指導以外に来所してもらう機会はなく、ともにサービスの向上に取り組んでいるとはいえない。	○	まずは運営推進会議を開催して、その後に来所してもらう機会を設けたいと思います。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	包括支援センターが開催する勉強会で学びました。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について学ぶ機会はありませんが、入浴時や、更衣時に皮膚の観察をおこなっています。		今後、勉強会の機会も設けたいと思います。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約の際は、必ず、「ご質問はないですか」と声を掛け、同意を得ている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	具体的に機会は設けていないが、直接、職員に意見、不満を言える雰囲気作りを心掛けています。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に報告していますが、全入居者の状態を毎月発行している新聞に掲載しています。金銭については、一人ひとりに出納帳を用意し、定期的にご家族に確認してもらっています。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情については、意見箱を設置しています。外部への相談については、契約書に記載しています。	○ 現在まで特に苦情はなく、苦情があった場合は、
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	特にこれといった機会は設けていないが、朝のミーティングや、個々が気付いた時に、管理者へ伝えています。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	日中は3:1の勤務体制で、夜間や、緊急時は時間を問わず、管理者へ連絡するようにしています。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動はほとんどありませんが、離職がある場合は、利用者へその旨を説明するようにしています。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は最小限しか参加しておらず、職員全体としての研修受講数は少ないと思います。	○	今後、研修情報など収集し、積極的に参加して、個々がレベルアップしたいと思います。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に地域ケア会議があり、参加しています。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	食事会などは年1,2回しか行なっておらず、仕事や人間関係にストレスを感じている職員がいます。	○	親睦会など、定期的を開催し、ストレス発散の場を作りたいと思います。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	業務日誌やタイムカードで勤務状況は報告し、資格なども考慮しています。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談に来られた時にご家族より、本人について詳しく聞かせてもらいます。また、入居されてから、ご家族の話を基に本人に直接聞くようにしています。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談に来られた時に「何か、質問や不安に思っている事はありますか」と尋ねています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者のなかには、疾患により、訪問看護を利用されていた方もおられました。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居されてからしばらくは、落ち着かれず、帰宅願望がある方もおられます。そのような時は、本人が安心しておられないと感じます。	○	他の入居者とのコミュニケーションの場を多く作ったり、本人が落ち着かれる環境作り(家族に何日か宿泊を頼んでみる)を試みたいと思います。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	意思疎通のある程度可能な方には支えあう関係は出来ていると思うが、介護度の高い方には、職員は介護される一方の立場に置かちになっていると思う。	○	介護度の高い方でも、その人に出来ることを見つけ、様々な場面で問いかけて行きたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	年間数回、家族に参加してもらおう行事を計画しているが、参加される家族はほぼ毎回同じです。	○	面会の間隔が開いている家族には、便りなどで促したいと思います。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	契約時に家族関係については、詳しく聞かせてもらっています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ときどき知人の方は面会に来てくださる方もいますが、面会は家族だけという方もおられます。場所については、行きたい場所を聞き、ドライブへ、月2,3回程度行っています。	○	馴染みの方に関しては個人差があります。(例えば、人付き合いが少なかった、他界されたなど)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	雰囲気、会話内容で把握できていると思います。簡単な手作業などを共同で行なってもらうように心掛けています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院された方やそのご家族には年始の挨拶はしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中で希望や意向を尋ねています。意向が曖昧な方については、家族の意向を主にしています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時や、日中の会話の中で把握に努めています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日の生活の中で把握するよう努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケア会議には家族は参加してもらっていない。	○	今まで連絡をしておらず、今後は事前に連絡を取り、参加してもらうようにしたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じて見直しが出来ていない計画があった。	○	適切な時期に見直すよう心掛けたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、早出勤務者が個別記録をし、勤務者は出勤時、記録に目を通してから業務に入っています。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外部サービスの利用(訪問看護)や病院受診時の家族の協力、入居者の外出の希望など、柔軟に出来ていると思います。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの受け入れが少ない。	○	ボランティアの情報を得、行事や外出の際に来ていただくようにしたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	実際にまだそういった事例はありませんが、連絡を取り合う体制にあると思います。	○	今後も継続して、地域連絡協議会に参加しようと思います。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	実際にはまだそういう事例はありません。	○	必要に応じて連携をとっていこうと思います。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者の状態に応じて、また、家族の意向を尊重しています。その際、かかりつけ医に報告し、了解を得ています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医は、認知症が専門ではありませんが、職員の相談はよく聞いてもらい、必要に応じて専門医を紹介してもらっています。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	健康管理については、ホームの看護職員により管理し、かかりつけ医院の看護職員さんに相談できている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	情報交換は出来ていないと思う。	○	連携できるよう、情報交換を多く行ないたいと思います。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	そういった方がおられ、医師、家族と共通の方針ができました。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	実際、終末期の方が入所され、かかりつけ医、訪問看護の利用にて対応し、入院となれたケースがありました。	○	今後も、医師、家族と相談しながら準備、検討したいと思います。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	移られる際は、ホームでの状況の説明や情報を提供しています。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	全ての職員が適切な言葉掛けができていないと思います。	○ その都度、指導します。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	意思確認の声掛けは行なっていますが、全ての入居者が意思を表現出来ていないように思います。	○ その方の表現能力を把握し、意思表示がしやすいような声掛けや働きかけを行いたいと思います。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	勤務体制や、病院受診など職員側の都合で、外出や買い物の希望をされる方に対して、希望にそえない時があります。	○ 希望がある際は、出来るだけその希望にそえるよう、勤務体制や、外出日の設定など検討したいと思います。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	特に、希望の店に行きたいと言われる方はおられないので、散髪希望があったとき、訪問理容に連絡し、利用させていただいています。その日に着る洋服についても、毎日本人が着たい物を着ているとは言えず、職員が選んだ物を着てもらっている日があります。	○ 希望の店があるのか確認し、ある場合は出来るだけその店を利用してもらおうと思います。また、身だしなみについても、本人に着たい服を選んでもらうようにしたいと思います。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その方の能力、意欲に応じて出来ていると思います。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	毎日出来ているとはいえませんが、食べたい物の声掛けや、食事摂取量の少ない方には好まれるゼリーやプリンを食べていただく時はあります。	○ 要望がある時は実行しようと思います。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	時間ごとの声掛けは行なっていますが、立位が困難でオムツを使用している方がおられます。	○	立位が困難な方に対しては、2人で介助してトイレで排泄してもらうよう、試みたいと思います。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	昨年の外部評価でも指摘していただいた項目ですが、経費やスタッフの配置の点で、実行できていません。	○	経営者や、職員間で話し合い、検討したいと思います。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	特に消灯時間は定めておらず、昼間でも、入居者の表情や、昨夜の睡眠時間などを考慮して、午睡をしてもらうようにしています。本人より訴えがある時も妨げないようにしています。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	全入居者に対して、出来ているとはいえません。	○	無気力、無関心な方に対しては、家族に尋ねたり、いくつか選択肢を用意して選んでもらうよう、取り組みたいと思います。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額のお金は本人に持ってもらっている方もいますが、ほとんどの方はホームで預かり、管理しています。(認知症のため、なおし込んで場所が分からなくなるケースが自宅であり、家族がホームでの管理を望まれます。)	○	買い物などに同行し、預かり金から、御自分の買い物をしてもらって、お金を払ってもらう機会を作りたいと思います。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出の希望があった時は出来るだけその希望に沿うようにしています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年間行事で家族との花見を計画しています。又、外出の好きな入居者の方は、家族が休みの日に遠方までドライブに連れていかれるケースもあります。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りはほとんどありませんが、電話は希望される時はその都度掛けるようにしています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は定めておらず、気軽にきていただくよう努めています。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が理解できているとはいえません。又、電動ベッドを使用されている入居者の中には、どうしても転落のおそれがある方もおられ、その方には転落防止のため、ベッド柵を使用しています。	○	職員で話し合い、ベッド柵をしない方向で検討したいと思います。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないようにしています。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	鍵をかけていない分、入居者の所在確認には気をつけています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	万が一の事態の恐れ(異食)から、洗剤など、一律に職員側で管理している物があります。	○	職員間で検討したいと思います。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	全職員が学べているとは言えませんが、事故は出来るだけ防止するよう心掛けています。	○	全職員が知識を得ることができるよう、講習会や勉強会に参加しようと思います。その場で得た知識をホームで生かしたいと思います。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的には行なえていません。急変時は直ぐに、提携医及び、管理者へ連絡を入れるようにしています。	○	全職員参加で、定期的に訓練を行おうと思います。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	実際に、災害時に全入居者を安全に避難誘導する方法が全職員身につけているか疑問だが、地域の方がたの協力が得られるよう、地域の行事や区役に参加しています。	○	災害を想定した訓練を、職員、入居者一緒に行なおうと思います。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	状態の変化があった方に対して、家族にその都度連絡し、職員、かかりつけ医間で話合った対応策を家族に了解していただくようにはしていますが、家族と話し合う機会は少ないと思います。	○	今までの暮らしを大切に、入居者がストレスを感じない対応を家族を交えて話しあいたいと思います。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日、2回のバイタル測定を行ない、異常時や急変時は直ぐにかかりつけ医に連絡し、指示を仰ぎ、申し送りノートにて情報を共有しています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報文書を保管して閲覧するようにはしていますが、目的、副作用を完全に理解できていないとおもいます。	○	薬の目的、副作用の理解に努め、疑問に思ふことはその都度、医師、薬剤師に確認しようと思います。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便確認は毎日行なっており、水分補給の促し、運動への参加を声掛けを行ない、便秘の原因や影響は理解できていると思う。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、介助の必要な方には入れ歯の洗浄や口腔ケアを行い、一人でできる方には、声掛けを行っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量は毎回確認して記録に残し、摂取量が少ない方には、別の物を用意したり、飲み込みの悪い方には、おかゆを提供しています。	○	食が進まない時は定時ではなく、時間をずらして提供したり、好まれる物を提供しようと思います。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	施設内の消毒、入居者、職員、来訪者への手洗い、うがいの励行を行なっています。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具に関しては、職員で管理し、食材は、食中毒のおそれのある食材は避け、新鮮な物を使用しています。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	工夫しているとはいえませんが、玄関に花を飾っています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は、入居者が作成した塗り絵、貼り絵などを貼り、西日が強い為、窓にはフィルムを貼っています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者は日中、ほとんどフロアにて過ごされますが、それぞれ、独りになりたい時は、思い思いに、居室に戻り外を眺めたり、横になったりされます。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを 活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている	入居の際は、使い馴れた物を持ってきてもらっています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換 気に努め、温度調節は、外気温と大きな差が ないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめ に行っている	毎朝、居室の換気を行い、便、尿臭がある時は、換気、消臭 剤などで対応しています。温度調節は、暑がりの方、寒がり の方に応じてしています。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし て、安全かつできるだけ自立した生活が送れ るように工夫している	手すりは必要な所に設置されていると思いますが、トイレのド アの幅が狭く、車椅子が入りづらい、玄関に2段、段差があ り、車椅子の上り下りが難しいという点があります。	○	車椅子の方にはトイレの際、介助者を増やしたり、外出の 際、スロープを使用しています。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	居室のドアには、名前を貼り、トイレも分かりやすい様、張り紙 をしています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	ベランダはなく、外周りもすぐに道路があり、外出(散歩)され る際は、職員が同行しています。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者全員女性ということもあり、ゆっくりとした時間ですごしてもらい、ある程度の入居者からの要求（外出、趣味、活動、食事のメニューなど）は実行することはできます。